

## 特集：卒業

## 生物学類学位記授与式卒業生謝辞

藤田 圭子（筑波大学 生物学類 4年）

笑って泣いて、最後の最後まで、たくさんの思い出を作った三月二十五日。あまりに楽しくて、寂しさがどこかに行ってしまう、「じゃあ、また明日ねっ」と、思わず言ってしまうそうになるくらい、そのときの私にとって、「別れ」は非現実的なものでした。出て行く張本人なのに、これからもずっと、つくばでの変わらない生活が、続いていくような感じがしていました。

しかし、新たな地での新たな生活は幕を開け、あの日からもう、ひと月が経とうとしています……。

この度、卒業後のつくば生物ジャーナル掲載という、貴重な機会をいただきましたことを、心から感謝致します。二十五日を、そして四年間を、今改めて振り返りつつ、ここに学位授与式の謝辞を記させていただきます。

## 生物学類学位記授与式謝辞

陸の孤島と呼ばれる筑波に降り立ってはや四年…。月日の流れはとてもはやく、先生方・先輩方のあたたかい歓迎を受け、期待と不安でいっぱいだった新入生も、今では研究テーマを持つ「いち科学者」となり、口を開けば、記憶力が低下したのだ、オールが辛くなっただの、平成生まれがうらやましいのだと、言うまでになりました。私達は今日、学類生生活に幕を下ろします。

勉学、委員会、部活、サークル、趣味、ボランティア…。時間の配分は人それぞれであったと思いますが、思い返してみればどの場面でも、ともに笑い、泣き、ときにはけんかもした、仲間が、隣にいました。人を支えること、人に支えられていること、当たり前のように、とても大切なことを、何度も教えてくれたのも、仲間達でした。多くの学生が筑波に残るなか、筑波を離れ、仲間から離れる身としては、ただただ、さみしい思いでいっぱいですが、築き上げてきた強い絆は、何年も、何十年も、途切れることなく、続いていくと、信じています。

卒業というゴールを迎えた私達は、休む間もなく新たなスタートを切ります。経験したこと、先生方・先輩方からいただいたもの、仲間や後輩達からもらったものを糧にして、それぞれの道を一步一步、自分が納得できるように、歩いていきたいと思ひます。

最後になりましたが、個性豊かな私達を見守り、ご指導くださった先生方、先輩方、事務員の皆様、家族、そして、しっかりついてきてくれた後輩達にこの場を借りて、心より、御礼申し上げます。四年間、本当にありがとうございました。そして、今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

今後の生物学類のますますのご発展と、皆様のご健康、ご多幸を願ひまして、謝辞とさせていただきます。

Communicated by Takeo Hama, Received April 22, 2010.

